

番組審議会資料（第 22 回、令和 6 年 3 月 19 日開催）

1 開催年月日：令和 6 年 3 月 19 日（火）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（7 階 白根）

3 委員

委員総数 8 名

出席委員数 6 名

出席委員の氏名：朝比奈豊（株式会社毎日新聞社 名誉顧問）、
足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、元ゆうちょ銀行取締役
兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、
兵頭俊夫（東京大学 名誉教授）、
音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、
中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、
元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、
吉原由香里（囲碁棋士）

欠席委員の氏名：野田慶人（元日本大学芸術学部 学部長）

清水市代（将棋女流棋士／

公益社団法人日本将棋連盟 常務理事）

放送事業者側出席者名：今井 環取締役会長、倉元健児代表取締役社長、
業務部コンテンツ編成より遠藤 健、高田智子、
渉外部セールスプロモーションより嶋田昌平、小松美怜

4 議題

- ・「放送番組の編集の基準」変更に関して
- ・審議：「第 31 期竜星 井山裕太の素顔」（囲碁）、
「藤井聡太 八冠制覇の瞬間」（将棋）
- ・その他の番組・特別編成などの紹介
- ・今後の放送予定

5 議事の概要

(1) 「放送番組の編集の基準」変更に関して

衛星放送協会の新しい放送基準と照らし合わせ、当社の「放送番組の編集の基準」
に不足していると思われるものを追記。→ 確認後、HPにて公開（4 月 1 日）

(2) 以下の番組に関して、審議（審議内容は「6」にて後述）

【囲碁】「第 31 期竜星 井山裕太の素顔」（2023 年 9 月 22 日初回放送）

- 【将棋】「藤井聡太 八冠制覇の瞬間」(2023年10月24日初回放送)
- (3) その他の番組・特別編成などの紹介
- 9月)「井山裕太竜星の素顔」放送に合わせ、井山竜星の出演番組を毎日放送する一挙放送実施。羽生善治九段を特別ゲストに招いた「いったん盤はおいといて」放送。
- 10月) 藤井聡太八冠達成、特別番組「藤井聡太八冠達成の瞬間」放送。
- 11月) 毎年恒例の「王将戦挑戦者決定リーグ戦」随時生放送。
- 12月) 当社初となるプロ野球選手による将棋リーグ戦「勘定奉行クラウド杯球王決定戦 2023」生放送。Xでの番組関係ハッシュタグがトレンド入りするなど、プロ野球とのコラボで将棋に関心のない層も惹きつけた。
- 1月)「王将戦」七番勝負を生放送。仲邑 董女流棋聖の韓国移籍前、最後のタイトル防衛戦である「女流棋聖戦」を生放送。
- 2月) 囲碁「テイケイグループ杯女流レジェンド戦」生放送。
- 3月) 韓国竜星戦で優勝したシンジンソ九段の自戦解説特別番組を放送。韓国トップ棋士による自戦解説は初めての試み。
- (4) 今後の放送予定
- ・「藤井聡太八冠のスゴさに迫る～新時代の幕開け～」
 - ・「日本棋院 創立 100 周年記念特番」
 - ・「日本将棋連盟 創立 100 周年記念特番」
 - ・「第 3 期 新竜星戦」

6 審議内容

- (1) 【囲碁】「第 31 期竜星 井山裕太の素顔」に関して
- (足立委員) 「素顔シリーズ」は新鮮な感じがする。囲碁と将棋は勝ち負けのようなイメージがあるが、人間性に着目した番組として制作され、新しい着眼点で良かった。日本の伝統文化である囲碁と将棋の礼節を重んじる象徴として、人間性を映し出すことは、全国のファンに向けて良かった。
- (朝比奈委員) 「井山の素顔」は、大変良くできている。本因坊で会う機会があったが、こんなにも砕けた表情で「本当の素顔」を魅せてくれて良かった。特に井山竜星の素顔を引き出した聞き役(林 漢傑八段)が見事だ。家族の件など、プライベートの話にも迫っていたが、笑顔で語っていることが印象的で、レベルが高かった。囲碁の AI の件についても踏み込んでおり、AI の普及によって、国(中国・韓国)の差がなくなって、誰かが突破口を開けば、日本の棋力もさらに上がっていくと語っている。ここまで話を引き出したのは、お手柄だ。
- (兵頭委員) 私も感銘を受けた。これまでの素顔とは違った切り口で良かった。
- (放送事業者) これまでは高段者向けの切り口であったが、幅広い方に受け入れら

れるような構成を試みた。

(兵頭委員) 幅広い方に向けることは大切なことだ。高段者の方でも難しい内容ではないが、楽しめたのではないか。どのレベルの人でも楽しめる。

(朝比奈委員) 6月の撮影とのことで、一力遼棋聖に負けがこんでいた時期ではないか。そのような時期の収録でも、リラックスした余裕のある表情でここまでの内容が引き出せたのは良かった。こんな豊かなバックヤードがあるのに驚いた。まだ井山竜星は強い。ファンからしても、井山竜星はまだまだ活躍してくれると感じた。

(足立委員) 囲碁ファンの高齢化が進んでいるが、若い方への普及が大事な課題なので、今回のような分かりやすく、子供たちに見てもらえる番組の組み方は大変良いのではないか。

(兵頭委員) (「素顔シリーズ」今後の予定) 連覇した場合は制作するのか。

(放送事業者) 連覇した場合も、制作していく。

(兵頭委員) 一力棋聖が連覇したときは、筑波山に登るなど、様々な切り口で楽しめた。

(吉原委員) 林 漢傑八段は周りをリラックスさせるのが上手い。林八段を聞き役にしたのは、囲碁界にいる身としても大変良かった。仲の良い出演者で良いメンバーを選んでいて、記者からの質問に答える場合とは異なり、色々な表情が見られ楽しく拝見した。

(朝比奈委員) お二人は非常に仲が良く、小学校での小芝居なども大変面白かった。

(吉原委員) 親しみを感じてもらえる切り口だと思うので、今後も是非(この路線で)「素顔シリーズ」を制作して欲しい。

(放送事業者) 今回、林 漢傑八段にナレーションも担当してもらったが、どうか。

(吉原委員) 頑張っていると感じた。すごく良かった。

(足立委員) 他の棋士の「素顔シリーズ」も検討して欲しい。

(中村委員) 主に将棋番組を見ているが、素顔に迫った番組は楽しく視聴出来るので良い。藤井聡太八冠の効果もあり、子どもと女性の視聴者も多く、タイトル戦での昼食やおやつが話題になる。盤外の新たな切り口としてこういった素顔を魅せて、幅広いファンに届けてほしい。藤井八冠の話題がどうしても多くなるが、色々な棋士の素顔に迫った番組を制作していくことも専門チャンネルの使命ではないか。

(音委員) 棋士の素顔が見えて良かったが、字幕テロップが多いのが気になった。活舌が悪いわけではないが、何か理由があったのか。

(放送事業者) 映像だけでは視聴者が飽きてしまうため、字幕テロップを入れることでカンフル剤の役目と分かりやすさを重視した。

(音委員) ワイドショーのような印象を受けたので、あまり入れない方が良かったのではないか。出演者の活舌が悪いわけではない。

(放送事業者) 考慮していく。

(朝比奈委員) 字幕テロップが多いと助かる方もいるのでは。視聴時間帯によっては、ボリュームを抑えている視聴者もいるため、字幕テロップがあることで視聴の助けになる。

(音委員) 囲碁・将棋チャンネルは、クローズドキャプション表示されるため、本編に字幕テロップは要らないのではないかな。

(兵頭委員) クローズドキャプション表示が出来るという、字幕テロップを入れてはどうか。今回の番組では私は気にならなかった。出演者はタイトル保持者はじめプロ棋士なので、難しい専門用語が出てくる場合もある。高段者から初心者まで分かりやすいように、その専門用語の説明テロップを入れると良いのではないかな。

(放送事業者) 今後の番組制作に活かしていく。

(2) 【将棋】「藤井聡太 八冠制覇の瞬間」に関して

(兵頭委員) 藤井聡太八冠の番組については、非常に話題になったタイトル戦であったので、初心者でも分かりやすく理解できる番組構成で、テンポが良かった。私の棋力では盤面を見ただけでは形勢判断が出来ないが、補足ナレーションがありバランスのいい構成だった。

(足立委員) 藤井八冠もそうだが、トップ棋士ではあるけれども、朴訥な言葉遣いでどこにでもいる一青年といった印象を持った。心の底から発する言葉に人間性が出ていて、視聴していて気持ちの良い番組だった。こういった番組は、囲碁と将棋の普及にも良いのではないかな。勝ち負けや講座だけではない番組制作を今後も進めてほしい。

(朝比奈委員) 私は勝ち負けも気になるが、それ以外の別の角度からの切り口の番組で、編集者が凄いと関心した。別タイトルを付けるとすれば「勝負の分かれ目」か。どの対局でもそうだが、振り返りたい局面が必ずあり、それを見事に再現していて非常に良かった。藤井八冠にもミスがあるが、そのあと対戦相手にもミスが出る。勝負の分かれ目に焦点をあてた素晴らしい番組だった。王将戦(第73期 ALSOK杯王将戦七番勝負)でも、藤井八冠の4連勝とはいえ、どうしてこういった指し手になったのか気になる局面があった。タイトル戦毎に制作してはどうか。王座戦第4局では天を仰ぎ、頭をかきむしる姿などが見受けられ「勝負の分かれ目」として編集した番組として制作しても良いのではないかな。

(兵頭委員) 負けた対戦相手も満足できる編集だったと思う。実力が伯仲していることが分かり、励みにもなる番組ではないかな。藤井八冠1強ではあるが、形勢が二転三転するなど、ほかのタイトル戦挑戦者や棋士もそれに近い実力が有ることが窺い知れる。

(放送事業者) 永瀬拓矢王座(当時)が二手連続で悪手をさした時に、形勢判断の表示(優劣)が入れ替わった。形勢判断があることで対局の熱量が伝わり、幅広い

視聴者にその指し手の良し悪しが伝わるような編集をし、制作している。

（朝比奈委員）番組のナレーションで「痛恨の一手だった」など、視聴者に分かりやすくドラマチックに制作している。

以上